

医学部

I	教育の水準	教育 17-2
II	質の向上度	教育 17-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成23年度から実施している大学改革活性化制度により、最先端研究を行っている教員を配置し、時代のニーズにマッチした講義と卒業研究に貢献するため、平成24年度にヒト疾患モデル研究センター及び応用幹細胞医科学部門の2組織を新たに設置している。
- 平成27年5月1日現在の専任教員に占める女性教員の割合は15.5%となっている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 幅広い職種の医療技術者と連携する協調性を育むため、医学部、歯学部及び薬学部が合同で行う「医療系統合教育科目臨床医学」を開講し、情報リテラシー教育とコミュニケーション能力向上に取り組んでいる。
- 高度医療を担う人材を養成するため、教育段階に応じて学内外及び海外で行う長期間の実習と講義等を組み合わせることで、実社会や国際的に通用する知識と技術の修得を可能としている。

以上の状況等及び医学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度の標準修業年限内卒業率は、医学科は82.2%から94.1%、生命科学科は71.4%から100%、保健学学科は89.1%から94.9%の間を推移している。
- 平成22年度から平成26年度の資格取得の合格率は、医学科の医師免許試験合格者は89.4%、保健学科の看護師資格の取得者は99.4%、保健師資格の取得者は99.4%、助産師資格の取得者は97.2%、診療放射線技師資格の取得者は

94.5%、臨床検査技師資格の取得者は91.1%となっている。

- 学業の成果の達成度や満足度に関する学生アンケートでは、各調査項目について肯定的な回答は80%以上となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 医学部では、大半が医療関係の国家資格を得ており、平成22年度から平成26年度の就職率は平均97.5%となっている。
- 医学科では、ほとんどの卒業生は医師初期研修に進んでいる。また、生命科学科では、平成22年度から平成26年度の卒業生のうち毎年79%から100%は大学院に進学している。

以上の状況等及び医学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 「大学改革活性化制度」により、平成 24 年度にヒト疾患モデル研究センター及び応用幹細胞医科学部門を新設し、最先端研究を行っている教員を配置し、時代のニーズにマッチした講義と卒業研究に貢献している。
- 教育段階に応じた長期間の実習と講義等を適切に配置し、実社会や国際的に通用する知識と技術の修得を可能としている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度から平成 26 年度の医学科新卒者の医師国家試験合格率は 89.4%となっている。
- 平成 22 年度から平成 26 年度の医学部の就職率は平均 97.5%となっている。また、生命科学科では平成 22 年度から平成 26 年度の卒業生のうち毎年 79%から 100%は大学院に進学している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。